

主の洗礼

2014.1.12

イザヤ 42・4,6-7

マタイ 3・13-17

先週の主の公現の祭日に続いて、今日の日曜日は主の洗礼を祝います。クリスマスから今日の主の洗礼の祝日までが、教会の典礼の暦では降誕節の季節となっています。何故、降誕節の最後の主日に主の洗礼を祝うのかということは、今日の福音の最後に、洗礼をお受けになったイエスの上に響く父である神のことばに示されています。ヨルダン川の水に身を浸して洗礼をお受けになったイエスが水から上がって、祈っておられると「天が開け、聖霊が鳩のように目に見える姿でイエスの上に降って来た」と語られています。そして、「その時、『これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者』と言う声が、天から聞こえた。」のです。イエスが洗礼を受けられた時のこれらのしるしとことばによって、クリスマスの夜、私たちがその誕生を祝ったイエスがどのようなお方であるかを、神ご自身が私たちに示しておられるのです。今日の福音に語られているこのことが、降誕節の最後の主日にイエスの洗礼の場面を思い起こし、祝うことの意味であると思われます。

それにしても、神の御子であるはずのイエスは、何故洗礼者ヨハネから洗礼を受けられたのでしょうか。洗礼者ヨハネが人々に求めたのは、迫り来る神のさばきの日に備えるための、悔い改めの洗礼です。神の子としてのイエスご自身には、私たちの場合のように悔い改めなければならないことは、何もなかったはずで、それにもかかわらず、イエスがヨルダン川のヨハネのところへ来られたのは、ヨハネから洗礼を受けるためであったと語られています。イエスは自ら望まれて、大勢の人々に交じって洗礼者から悔い改めの洗礼を受けられたのです。ヨハネから洗礼を受けようとするイエスの意志は、洗礼者とのやり取りの中でさらに明確にされています。イエスに洗礼を授けることを躊躇しているヨハネに対して、イエスこう言われます。「今は、止めないでほしい。正しいことを全て行うことは、我々にふさわしいことだ」。神の御子であるイエスにとって正しいことを行うとは、父である神の御心に従って、神の御心に適ったことを行うということです。イエスは父の御心を行うために、洗礼者が人々に宣伝した洗礼を受けられたのです。それなら、イエスは何故そうすることが父の御心に適うことであると受け止められたのでしょうか。

クリスマスの夜、羊飼いたちのほかには誰にも気づかれずに、秘かにベツレヘムの馬屋にお生まれになった神の子イエスはそのようにして私たちの世界に

来てくださいました。布に包まれて飼葉桶の中に寝かされた乳飲み子イエスは、私たちすべての者と同じ者となって、私たちの世界に来てくださったのです。そのようにして私たちの中にインマヌエルとしてお生まれになることが、父である神のその御子に対するお望みであったのです。「神は、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。」とヨハネ福音書が教える、私たちすべての者への神の愛のしるしそのもととして、神の御子が人間である私たちの一員となって、私たちの世界に来てくださったのです。

私たち人間の心の深みにある渴望は、自分たちが救われることへの願いです。洗礼者のもとに群がるように集って来た人々は皆、救われることを願って、救いに与る条件として洗礼者ヨハネが説いた悔い改めの洗礼を受けていたのです。イエスは、そのような神の救いを求める人々の中に来てくださって、彼らの願いと一体となって、自らも洗礼者ヨハネから洗礼を受けられたのです。それが、この人の世に愛する御子を遣わされた父である神のお望みだからです。今日の福音に語られているイエスのこのような生き方に対して、父である神は「これはわたしの愛する子。わたしの心に適う者。」と応えておられます。

イエスが洗礼を受けて水から上がられると、天がイエスに向かって開いたと語られています。人々に交じって、人々の心と一つになって洗礼をお受けになったイエスのうちに、父なる神はその御心に適う愛する子を見出されたのです。そのイエスに向かって天が開かれたのです。イエスがそこにいてくださることによって、この地上でイエスと共に、救いを求めて洗礼を受けた人々上にも天が開かれたのです。そのためにイエスは自らも洗礼を受けることを望まれたのです。

イエスに向かって開かれた天を通して、聖霊が鳩のようにイエスの上に降るのをイエスをご覧になったと言われています。このとき、イエスの上に降った聖霊は、今日の第一朗読のイザヤの預言を思い起こさせます。イエスはこのとき、イザヤ預言者が告げていた主のしもべとして、主なる神が約束されたメシアとして聖霊を注がれたのです。洗礼の時のこの聖霊の降臨によってイエスのメシアとしての活動が開始されようとしています。メシアとしてのイエスの働きがどのようなものであるかということは、第一朗読のイザヤの預言が告げているとおりです。洗礼者ヨハネが考えていたような神の怒りの炎をもって実現されるさばきではなく、傷ついた葦を折ることなく、消えかかっている灯心を消すことをなさない、憐れみの愛によってもたらされるさばきを行うメシアとしてイエスは来てくださったのです。イエスの上に降った聖霊が鳩のような姿で描かれていることにも、同じような意味が込められています。イエスの上に降った聖霊の鳩は、ノアの洪水を思い出させます。鳩は、ノアとその家族たちに、人類の罪に対する神の怒りのさばきとしての洪水の終わりを知らせたの

でした。洗礼を受けて水から上がられたイエスの上に舞い降りた聖霊の鳩は、イエスの洗礼によって始まる新たな神の救いの時を告げているのです。クリスマス私たちのもとに来てくださった、私たちのメシア・救い主イエスが、私たちにもたらしてくださった救いのみわざは、今日私たちが祝っている、イエスの洗礼によって開始されたのです。

イエスは私たちのために、私たちと共に洗礼を受けてくださいました。私たちもイエスがもたらしてくださった神の救いを求めて、イエスの御名によって洗礼を受けた者たちです。それは、イエスがその十字架の死と復活をもって完成してくださった神の救いをこの身にいただくためです。今日のこのミサをささげて、私たちがいただいている洗礼の恵みのありがたさを噛み締めながら、その始まりとなったイエスの洗礼、主の洗礼の祝いを祝いたいと思います。

洗礼の恵みをいただいている私たちにとって、今日祝っている主の洗礼は、私たちが受けた洗礼の恵みが、どれほどの恵みであるかを示しています。私たちの主であるイエスが私たちのために私たちと同じ者となられて洗礼を受けてくださったことによって、私たちが受けた洗礼はイエスの洗礼に与る洗礼となったのです。イエスの洗礼に与る洗礼の恵みをいただいたことによって、私たちはもはや、どこかに救いを求めてさまよう必要がなくなったのです。救いを与えてくれる何かを、誰かを、あてどなく探し求める必要はなくなったのです。私たちは、その御子イエス・キリストを通して、私たちを御自分の子らとして迎え入れてくださっておられる全能の父である神の庇護のもとに生きているのです。イエスを通してこの地上に降り注ぐ聖霊の恵みを与えられて、私たちは神の子らとして生きる永遠のいのちの交わりの中に迎え入れられているのです。私たちのこの信仰が、この世の生活の中で、たとえ傷つくことがあっても、たとえ暗くなって消えかかることがあっても、私たちに先立って、私たちが受けた洗礼をお受けになられたイエスは、絶えず新たないのちと新たな光をもって、私たちのもとを訪れてくださるのです。

今年成人式を迎え、このミサの中で神の祝福をいただく若い方々の中に、彼らが受けている洗礼の恵みのいのちが豊かに輝き出るよう御一緒に祈りたいと思います。

カトリック高円寺教会
主任司祭 吉池好高